

大阪中体連バスケットボール専門部

コロナ禍における部活動の感染防止ガイドライン

～「WITHコロナ」に向けて～

令和4年度 Ver.1（令和4年4月1日配布）

はじめに

本ガイドラインは

- ① 大阪中学校体育連盟より出された『主催大会開催に係る感染拡大予防ガイドライン』
- ② JBAより出された『JBAバスケットボール事業・活動実施ガイドライン（手引き）』
- ③ 文部科学省より出された『新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル ～「学校の新しい生活様式」～
- ④ 大阪府が出している「大阪府新型コロナ警戒信号」や「大阪モデル」

を基に、本バスケットボール専門部に関わる大会を運営していくために作成されたものである。また、本ガイドラインでは、練習や練習試合（合同練習なども含む）に関わっても活動の目安を示し、生徒の健康・安全を始め、指導する先生の健康・安全、さらには中学校の部活動に関わるすべての人のご家族の健康・安全を守るために作成されたものである。

作成にあたっては、大阪中学校体育連盟バスケットボール専門部運営委員会組織において（以下「運営委員会」という）検討し、まとめている。今後、大阪府の感染状況をふまえた上で大幅な変更も十分に考えられることとし、さらに今後の知見の集積及び他地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得るものとする。

もくじ

1. 徹底すべき感染予防	・・・・・・・・ 1
2. 部活動をするにあたっての専門部としての基本方針	・・・・・・・・ 1
3. 地域感染状況に応じた活動基準	・・・・・・・・ 2
4. 大会開催にあたっての基本的な考え方	・・・・・・・・ 4
5. 大会における具体的ガイドライン	・・・・・・・・ 4

1. 徹底すべき感染予防

- (1) 感染しやすい状況を回避すること
 - ① 3つの密（密閉、密集、密接）を作らないようにする
（人と人との間隔は、できるだけ2mを目安に（最低1mを目安に））
 - ② 大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと
 - ③ 屋内では、換気を徹底すること
 - ④ その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること
- (2) 「感染リスクが高まる『5つの場面』と『感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫』」を理解し、感染拡大防止に務めること（部活動において想定されるリスクについては、以下に示す通りである）
 - ① 食事をする際には、対面しないように座席を配慮すること。また、食事の場面ではマスクを外しているため、会話は一切しないこと（「黙食」に努める）
 - ② 水分補給をする際は、人と人との距離を2m（最低1m）あけ、会話をせずに水分補給すること
 - ③ 控室や更衣室では、必ず換気すること（季節に関わらず、必ず換気すること。ただし、更衣室などで更衣が外から見える場合は、パーテーションをおくなどし、工夫した上で換気は怠らないようにすること）

2. 部活動をするにあたっての専門部としての基本方針

- (1) 安全最優先
まずは、生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフの方々のご家族等が安全に活動できる環境を提供する。
- (2) 各校の活動（練習や練習試合など）の可否について
活動の可否決定については、各市町村教育委員会及び各学校長の判断が優先とされることが前提であり、本ガイドラインは、あくまで「めやす」である。
- (3) 活動する上で、徹底すべき点
 - ① 健康観察を実施していること（顧問・生徒・関係者など）
 - ② 施設・設備・用具を消毒していること（毎日）
 - ③ 生徒の参加は任意であること。また対外試合については保護者の同意が得られていること
 - ④ 参加する全員（顧問・生徒・関係者）が感染予防に努めること以上が守られない場合は、すべての対外的活動（対外試合・公式戦・合同練習等）は一切認められない。
- (4) 公式戦について
ここでいう公式戦とは、以下の大阪中体連主催大会のことである
 - ① 大阪選手権大会
 - ② 大阪総合体育大会予選 兼 各地区冬季大会
 - ③ 大阪総合体育大会本ガイドラインは、上記の大会について規定しており、各市町村大会や各地区中体連止まりの大会については、各市町村や各地区中体連のガイドラインに則って実施すること
- (5) 不当な扱いや差別などの禁止
感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことをしてはいけない。また、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷を許容しない。

3. 地域感染状況に応じた活動基準(活動のめやす)

(1) 本バスケットボール専門部としての指標

「大阪モデル」 のステージ	グリーン	イエロー	レッド	
			レベル1	レベル2
練習	○	○	△	
練習試合 (他校との交流)	○	△	△	
公式戦	○	○	△	△
観客	制限あり	制限あり	△	×

感染状況により、開催できない大会があった場合、その後の大会のあり方については運営委員会にて検討する

(2) 練習についてのめやす

- ① グリーンおよびイエローにおいては、感染防止対策を講じながら、通常の活動を行っても良い
- ② レッドにおいては、可能な限りマスクを着用しての練習を推奨する。ただし、熱中症などの健康面への心配があるため、マスクを外して練習する場合は身体接触の伴う練習を極力避ける方が好ましい。
※ バスケットボールの競技特性上、コンタクトの伴う練習が重要であることは周知の事実であるが、コンタクトバックなどの用具を使うなど、人と人との接触以外で取り組める練習を考えることが好ましい

(3) 練習試合(他校との交流)のめやす

- ① グリーンおよびイエローにおいては、感染防止対策を講じながら、通常の活動を行っても良い。ただし、共有物(オフィシャルテーブルなど)を利用する際には、小まめな消毒を励行することが大切。
- ② レッドにおいては、地域感染状況に配慮して適切に判断すること。

(4) 公式戦についてのめやす

- ① グリーンおよびイエローにおいては、感染防止対策を講じながら公式戦を実施する。
- ② レッドにおいては、大阪中体連事務局及び各市町村教育委員会等の指示に従い、適切に対応する。
- ③ 以下の場合、延期または中止を検討する
 - ・ 大阪中体連事務局の要請があった場合
 - ・ 感染拡大の影響により、開催が困難と判断した場合

(5) 観戦についてのめやす

- ① 観客について
このコロナ禍においては、感染防止対策を講じた上で大会を開催することが必須であるため、原則無観客での大会開催(リモートマッチ)とする。ここでいう観客とは、不特定多数の観戦者のことをいう。関係者についてはこの限りではない。
- ② 関係者の観戦について
ここでいう関係者とは、A 部員の保護者、B 試合に関係する顧問以外の中学校教員(他校の顧問も含む)、C バスケットボール関係者(高体連やミニ連の指導者)である。

【関係者の観戦に関する一覧】

「大阪モデル」 のステージ	グリーン	イエロー	レッド	
			レベル1	レベル2
A 保護者	・ 20名まで ・ 参加一覧提出（顧問）	・ 各校16名まで ・ 参加一覧提出（顧問）	・ 観戦不可 ※ ただし、状況により変わることもある	
B 他の学校教員	・ 可能(当日、申し出必要)	左に同じ	・ 観戦不可	
C バスケットボール関係者	・ 事前の申し出が必要	・ 高校の先生のみ可	・ 観戦不可	
ベンチメンバー 外の選手	・ 制限なし	・ 15名まで(マネージャーが生徒の場合14名まで) 1校合計30名まで	・ 15名まで(マネージャーが生徒の場合16名まで) ※ ただし、メンバー外の3年生については観戦可能	

【備考】

- ① 上記は、中学校会場を想定しているため公営体育館の場合は以下の通りである
 - ・ グリーンおよびイエローの場合、参加生徒の上限はなし
 - ・ グリーンおよびイエローの場合、保護者の上限はなし（ただし、体育館で制限がある場合はそれに準じて人数制限あり）
 - ・ B、Cについては中学校会場と同様
- ② 保護者の人数設定基準は、小さな体育館を想定した際にオポジットサイドに並べられるイスの上限が20脚であると想定しています。
- ③ 参加同意書については、各校で回収し保管しておくこと。また、観戦に来る保護者の一覧を顧問が作成し、会場責任者に提出をすること。
- ④ 中体連事務局から上記の内容と異なる通知が出た場合は、この限りではない
- ⑤ 保護者の観戦については、自チームの試合のみ体育館に入場し、それ以外の時間については校外で待機すること（選手控え室まで同行するなど、校内で待機することは一切認めない）※中学校会場の場合
- ⑥ 中学校会場の場合、会場校の学校長が保護者や関係者の観戦を認めない場合は、保護者の観戦はできない。
- ⑦ 大会会場に来た保護者、他校の学校関係者については、受付で必ず記名すること。
- ⑧ 観戦する際の注意事項
 - ・ 決められた場所で観戦すること
 - ・ 体育館へ入場する前は、手指消毒（手洗いやアルコール消毒など）を実施すること。その際、必ず会場に準備されているわけではないので、個人で用具を準備しておくこと
 - ・ 隣の人とできるだけ2m（最低1m）の間隔をあけること
 - ・ 声を発する応援はしないこと

【補足】 「保護者等」という表記にしている理由は、保護者は両親であるが、観戦する人が祖母の場合などが考えられるためである。祖母であっても、認められた観戦者については、関係者とする。

【保護者の皆様へ】

公式戦の観戦については、以下の流れをお願いします。

観戦前2週間の健康観察 → 大会感染の申し出（顧問へ） → 当日の感染予防 → 観戦
 万が一、観戦から48時間以内に感染が疑われる症状が発症し、感染が判明したらすぐにお子様の顧問にご連絡をお願いします。

4. 大会開催にあたっての基本的な考え方

大会を開催するにあたっては、生徒その家族に加え、教員とその家族の健康・安全に留意した上で、可能な限り開催する方向を検討する。その際は、上記3を基準に可否を決定する。ただし、感染状況に応じて一律に決定できない場合もあるため、その時は運営委員会にて適切に対応を考える。

また、大阪中体連主催大会が行えない場合であっても、市町村大会については市町村教育委員会の判断が優先されるため、地域の感染状況に応じて適切に開催することがあっても問題ないとする。

さらに、すべての大会において、開催が決定している場合や大会が開始してからでも、状況によっては急遽、大会を延期または中止にすることがあり得ることも理解しておくこと。

5. 大会における具体的ガイドライン

(1) 事前の対応

主催者は、会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加チームに対して感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡を行い、協力を求める。運営委員会と各チームの代表者は事前・大会当日・事後に相互の連絡を取り合える環境をつくる。

① 生徒参加同意書

各校において、生徒から参加同意書（1年を通しての大会参加について）を提出させ、その生徒のみ大会参加を認める。その同意書については、各校顧問が保管すること。もし、年度途中で大会参加を見合わせる生徒がいる場合は、生徒から当該校の顧問に申し出ること。

② 学校参加同意書

事前に学校参加同意書（エントリー用紙）が地区委員長に提出され、本ガイドラインを遵守して参加できる学校のみ、大会参加を認める。

③ 大会参加人数について ※参加人数とは、ベンチメンバー以外で大会会場に帯同する生徒も含む

- ・ イエローの場合は、ベンチメンバー含む30名を上限とする

【参考】上記の基準は、1日2試合を行う際に中学校会場では教室を控室として利用することが多いと思います。その際、1つの教室で安全に昼食（黙食）をしようと思ったら、机の数よりも生徒の数が多いとそれが難しくなる。そのため、30人に設定しておく方が妥当だと考えています。

- ・ レッドステージの場合は、各チームの生徒の大会参加人数は、選手15人とする
(マネージャーを生徒にする場合上限は16人)

- ・ 3年生については、登録メンバー以外の生徒の参加を認める

④ 大会参加に係る確認書

- ・ 中体連主催大会の際には、当日の体温、大会2週間前における症状の有無、質問欄へのチェックを行い、一覧表にして、チーム代表者は会場責任者に会場に入る際に提出すること。

- ・ 試合当日、出発場所から出発する前に各校顧問が検温を実施すること。

- ・ 提出された確認書は、回収した会場責任者が保管しておくこと

※大会当日の発熱、または質問項目にチェックがあった場合は大会参加を認めない。

※2週間における症状の有無については、学校の登校に問題がなければ、大会参加を認める。

⑤ 連絡体制について

参加校において、大会参加後48時間以内に新型コロナウイルス感染症の感染が確認された場合は、速やかに地区委員長（運営委員会）に報告を行うこと。

⑥ 行動記録について

大会中は可能な限り行動記録を記載すること。（感染者発覚の際、濃厚接触者特定に必要なため）

(2) 会場における感染対策

① マスクの着用について

- ・ 移動及び会場内ではマスクを着用する。試合前のウォームアップからマスクを外してもよい。ただし、感染状況によっては着用しておく方が好ましい。
- ・ オフィシャル時またはコートキーパー時はマスクを着用する
- ・ チームスタッフはマスクを着用する (マウスガードは原則禁止)
- ・ ベンチメンバーは必ずマスクを着用して、ベンチに入る。

② 消毒作業について

- ・ 試合ごとに共有物（イス、テーブル、試合球、オフィシャルセット等）を消毒すること。
- ・ 全試合終了後、体育館については会場責任者の指示のもと、できる限り全チームが協力して消毒作業を行う。（イス、テーブル、オフィシャルセット、ドアノブ、トイレ、階段の手すりなど）
- ・ 消毒液については各チームで準備する。
- ・ 更衣室や控え室については使用したチームが責任をもって消毒作業を行う。（その際の消毒液は使用したチームで準備する）
- ・ 公営体育館の場合は、体育館関係者の指示に従う。

③ チームの移動について

- ・ 公共交通機関を利用する場合は、感染予防に努めること

(3) 受付について

会場校は入り口または体育館の舞台等に大会参加に係る確認書を受け取る場所を明確に設置すること

(4) 試合会場について

- ・ 手指消毒液など、試合や練習でこまめに使用できるように準備しておくこと。
- ・ オフィシャル席やベンチ席についてはできる限り距離をとって配置する。
※ベンチエリアをはみ出して席を設置してもよい。
- ・ 試合会場（中学校会場）では、可能な限り参加校全ての顧問で最終的な消毒作業を協力して行う。
- ・ スポーツ施設・用具器具、その他の備品も頻繁に消毒を行う。
- ・ 会場校では決められたところ以外は立ち入らないこと。

※バスケットボールの消毒に関しては、ボールそのものの劣化を招く可能性があるとしてされており、詳しくはお使いの各ボールメーカーの「お手入れ方法」に従って下さい

(5) 審判について

- ・ 審判は原則ホイッスルカバーを着用（使用）すること
- ・ 電子ホイッスルの使用も可とする。
- ・ ホイッスルの上からマスクを使用することも可とする（レフリーマスクの使用を推奨）

(6) 控室及び更衣室について

- ・ 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ
- ・ ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない
- ・ 座席を設置する際、人と人との距離を2 m（最低1 m）の間隔をあげ、お互いが向かい合うように座らないよう配慮する
- ・ 更衣時間を設定するなど、密にならないように配慮する

(11) 事後対応

万が一、感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会当日の参加者から取得した書面や健康チェックシートを、保存期間を明記した上で保管する。

- ・同意書→1年間
- ・参加確認書→2週間

また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合は速やかに各地区委員長に報告をすること。

(12) 大阪コロナ追跡システムの導入について

公営の体育館を使用する場合は、大会本部が独自にQRコードを作成し、大阪コロナ追跡システムを導入する。作成したQRコードについては受付にて、来場したすべての関係者に登録を依頼すること。

また作成したQRコードは必ず目立つ場所に掲示する。尚、公営の体育館施設で作成しているQRコードが事前にある場合でも大会本部は独自にQRコードを作成し、その際、来場者には双方の登録を促すように促すこと。

6. 参加校に陽性者・濃厚接触者・体調不良者が判明した場合の対応

(1) 前提として

運営委員会においては、感染対策を十分に講じた上で大会運営をすることが原則として考えている。その中で全ての中学校やバスケットボール部関係者にお願いしたことは、各校や生徒各自の感染予防を行うことはもちろんであるが、感染拡大防止の観点を大切にして大会参加の可否を決定してほしい。その場合、苦渋の決断をしなければいけないこともあるかもしれないが、バスケットボールという競技特性上、身体接触が多くあるため感染拡大する可能性が高いので、各校が感染拡大防止の観点を持つ必要があると考える。

(2) 出場可否の決定について

自校で陽性者・濃厚接触者・体調不良者が判明した場合は、保健所の指示に従いながら市町村教育委員会および各学校長の判断を最優先にし、その学校が大会に参加するか否かを決定する。原則として、学校に登校できる状況であれば大会に参加することは問題ないと言える。

それでも判断の難しい状況がある場合は、各地区委員長に相談をすること。

以上